

序

古都奈良に押し寄せる開発の波は最近その激しさをさらに増していて、豊かな文化財に恵まれた景観の変貌とともに、土地に刻まれた歴史も急速に失われようとしている。こうした状況のもとで、平城京内の発掘調査件数もうなぎ登りに増加し、長屋王邸の発見に代表されるような、大きな成果が次々にあがっている。

今回発掘調査した、平城宮南側の地域は、京内の一等地であり、高級貴族の邸宅や京内官衙の存在が推定される地である。近年、その南にある通稱大宮通りの利用が一層増大したのにもなって、この附近の開発の件数が増加している。

調査の成果は本書に記述してあるとおりで、坪全体の中に整然と配置された建物の検出や、大量の土器の出土などによって、左京三条一坊における土地利用のあり方について重要な知見を得ることができた。今後の周辺地域における調査の進展の中で、古代平城京の様相がより具体的に明らかになることを望む次第である。

1993年3月25日

奈良国立文化財研究所長

鈴木嘉吉